

社会科学習指導案

指導学年：小学校 第4学年

指導者：担任教諭（T1）

栄養教諭（T2）

1 単元名 「わたしたちの広島県」 ～おいしい広島の味 大発見！～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）の次の内容に基づき設定した。

第4学年の内容

(5) 県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

(イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

本単元は、県内の特色ある地域の中から、「地域の資源を保護・活用している地域」について取り上げたものである。広島県では、瀬戸内の温暖で雨の少ない気候や地形を生かして、レモン栽培がさかんに行なわれ、今ではレモンの生産量が日本一となり、「広島レモン」として特産物になっている。

児童に、「なぜ、広島県でレモンの栽培を行うようになったのか」という問いを持たせ、生産量が日本一になったわけを広島県の自然環境と照らし合わせながら考え、また、レモンを加工してさまざまな商品を開発・販売している生産者の工夫や努力にも触れさせることにより、児童がふるさと広島に愛情と誇りを持ち、人々が協力して地域の資源を保護・活用し、地域や産業を発展させている特色あるまちづくりについて理解することができる単元である。

(2) 児童観

児童は、これまでに学習で広島県の地形や自然環境について学習している。また、総合的な学習の時間で、広島県に伝わる郷土料理について学習をしている。令和3年6月に行った「食に関するアンケート」では、「広島県の食材を知っているか。」という質問に対し、50%の児童が「あまりあてはまらない、まったくあてはまらない。」と答えており、給食に登場する食材の名前はわかるが、「それが広島県でとれた食材であるかどうかまではわからない」、「食材と産地が結びつかない」という実態が見られる。

(3) 指導観

本時の指導に当たっては、まず、広島駅及び京都駅のお土産コーナーを紹介し、それぞれの駅なのか、特徴をあげながら考えさせる。そして、「広島駅のお土産コーナーにはどのような特徴があるだろうか」と問い、レモンを扱う商品が多く並べられていることや、広島県ではレモンの生産量

が多いことに気付かせたい。

次に、広島県がレモンの生産量第一位になった理由について、地場産物マップやタブレット、教科書を活用し、瀬戸内海の島々の地形や気温、降水量など、広島県の自然環境がレモンの栽培に適していることに気付かせる。また、生産者をゲストティーチャーに招き、みかんに替わる柑橘類としてレモンの苗木が広島県に持ち込まれ、生産者が工夫し努力して、土地に適したレモンの栽培ができるようにしていったことについて話してもらおう。さらに、レモンの加工品を紹介し、レモンを生産するだけでなく、様々な商品に加工して消費者に届けていく工夫についても児童に捉えさせたい。

なお、本時の学習が第5学年での食料生産の学習につながっていくことや広島レモンが学校給食に取り入れられていることを紹介し、広島レモンに対する関心を高めていきたい。

3 指導計画

単元計画（全8時間 本時5/8時）

時	学習内容
1	地図帳を活用し、自分たちの県や周囲の様子で知っていることを話し合う。
2	広島県のいろいろな特色ある地域について調べる計画を立てる。
3	広島県の自然条件について調べ、白地図などにまとめ、話し合う。
4	広島県の土地がどのように利用されているか、調べ、白地図にまとめ、話し合う。
5	広島県の地理的環境に着目して、なぜ広島県でレモン栽培がさかんに行われるようになったのかを関連付けて考える。
6	広島レモンの生産量や販売における工夫を自分たちで調べ、まとめる。
7	広島県には、ほかにどのような特色を生かした人々のくらしの工夫があるのか調べ話し合う。
8	調べたことをもとに、広島県の特色について話し合う。

4 本時の目標

地形や気候などの自然環境を生かし、農家の人々が工夫や努力をしながらレモン栽培を行っていることを理解することができる。【知識・技能】

5 食育の視点

広島県では地域の特色を生かしてレモンが栽培されていることや、レモンの生産・販売における工夫等について理解し、広島県の食べ物を大切にしていこうとする態度を育成する。【食文化】

6 準備物（教材・資料）

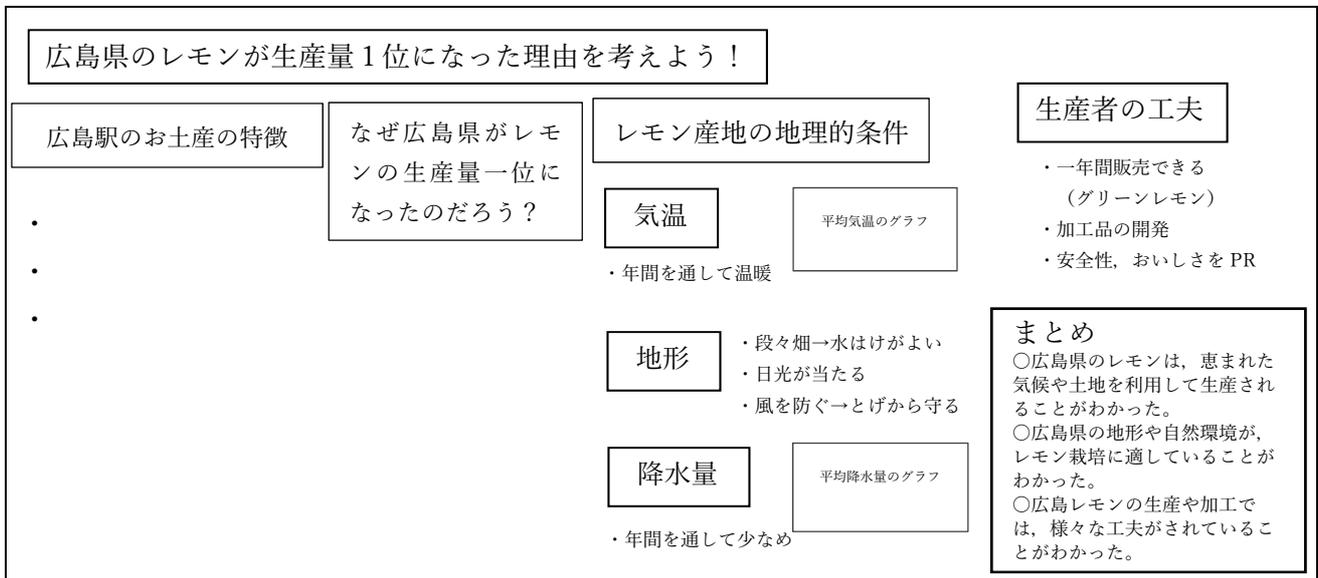
駅のお土産売り場の写真（広島駅、京都駅）、レモンの生産量のグラフ、地場産物マップ（JAより）
広島県の地形や気温を示すグラフ、レモンの加工品、タブレット、（レモンの実と木）

7 本時の展開

	学習活動 ・予想される児童の反応（行動・発言等）	◇指導上の留意点 ◆支援を要する児童への手立て		☆評価規準 (評価方法)
		T 1	T 2	
導入	1 駅のお土産コーナーの写真から、それぞれの駅の特徴に気付く。 ・広島駅はレモンの商品が多いな。 ・京都駅は、漬物やお茶が多いな。	◇2つの駅のお土産コーナーの写真から、特徴や理由を発表させる。		
	2 本時のめあてを知る。	◇生産量のグラフから広島県はレモンの生産量が全国1位であることに焦点をあて、レモンについて学習をすることを知らせる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 広島県のレモンが生産量1位になった理由を考えよう！ </div>				
展開	3 レモン栽培がさかんな理由を考え、発表する。 (個人→グループ→意見交流) ・気温は、年間をとおして温暖だね。 ・降水量は年間をとおして少ないね。 ・島があるから風があたりにくい地形だね。	◇資料から「レモン」が栽培される瀬戸内海の島々の自然環境に着目させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> どういう気候・地形等の自然環境がレモン栽培に適しているのかな？ </div>	◇地場産物マップ，教科書から，資料を提示する。 ◆着目する点が見えるよう，個別に助言する。	
	4 広島レモンを栽培する人々の工夫について知る。	◇人々の工夫があることにも気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自然環境だけで生産量が1位になったのかな？ </div>	◇レモン農家を紹介し，栽培の工夫などについて話をしてもらう(又は動画，オンラインでつなぐ) ・外国産のレモンとの差をつけるために，農薬を極力使わずに，皮まで食べられるレモンの栽培をめざした。 ・グリーンレモンを売ることによって年間の販路を確保した。 ・レモンのとげが実を傷つけないのは，地形が風の影響を受けにくいから。 ・段々畑は水はけや日当たりがよくなり，レモ	

	<p>5 広島レモンが身近なところで消費されていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島レモンっていろんなところで使われているね。 ・道の駅やスーパーで見たよ。 		<p>ン栽培に適している。</p> <p>◇広島レモンが様々なものに使われていることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際のレモンの加工品を見せる。 <p>◇献立表から，学校給食にも広島レモンが取り入れられていることに気付かせる。</p>	
終末	<p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>○学習を通してわかったこと，考えたことをノートにまとめ，発表する。</p>	<p>◇ノートにまとめるための視点を示す。</p> <p>*次の授業では，その他の食材についても学習することを知らせる。</p> <p>例)かき等</p>		<p>☆地形や気候などの自然環境を生かし，農家の人々が工夫や努力をしながらレモン栽培を行っていることを理解している。【知識・理解】</p> <p>(児童の発言・ノート)</p>
<p>《児童のまとめ例》</p> <p>広島県はレモンの栽培に適しているということがわかりました。レモン農家さんは，自然環境を上手に利用して，レモン栽培をしていた。そのレモンを使って，様々なものがつくられていることがわかった。だから，生産量が1位になったんだね。</p>				

8 板書計画



9 他教科等との関連

【社会科】これからの食料生産とわたしたち（5年生）

【国語科】「ふるさとの食」を伝えよう（4年生）

【家庭との連携】学級通信，食育通信，ホームページ等で家庭にも取組内容を知らせる。

【学校給食】広島レモンを使ったメニューを給食で提供する。

☆コラム☆

「レモンの栽培や生産・販売における工夫」について理解させるための工夫

キーワード：実物に触れる



- レモン農家を招聘したり、レモンの木を見せたりすることで、地形など自然環境に合わせた生産の工夫について、より深い理解につなげることができました。
 - ・児童が疑問に思ったことは、すぐに答えてもらうことができます。
 - ・レモンの木のとげを実際に見たり触ったりすることで、風が強いと実を傷つける可能性があることについて気付かせることができます。
 - ・レモン畑と教室をオンラインでつなげることで、実際のレモン畑の様子を授業中に確認することも可能です。
- レモンの加工品を見せることで、レモンが様々なものに加工されていることを実感させることができました。なお、担任と栄養教諭が協力してレモンの加工品を集めたことで、担任は、新たな発見を交えながら児童へ伝えていくことができました。
- 授業日の学校給食でレモンを使った料理を提供することで、児童は学習内容と関連付けながら学校給食を食べることができます。